

近頃、発症する人が増えていると話題に挙がり、チクチク、ピリピリ、ズキズキと痛む帯状の皮疹が特徴の带状疱疹(たいじょうほうしん)について、渋谷医院副院長 澁谷泰弘先生にお話をうかがいました。



皆様こんにちは。今回は最近発症者が増えている带状疱疹について解説いたします。
新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、神奈川県でも大流行となったオミクロン株の感染拡大時期に带状疱疹の患者数が増加していることを日常診療で感じました。その理由はCOVID-19が直接的因子ではなく、小児の水痘ワクチン接種が2014年に定期接種となり、水疱瘡の感染者が激減し自然接触による水痘免疫の働く機会が減ったことが要因と考えられ、徐々に子育て世代から高齢者世代に及んだ結果、带状疱疹の患者増加に繋がったと考えられています。带状疱疹は、体の免疫力が低下した時に発症する疾患で、その原因は水痘・带状疱疹ウイルスです。多くの方は幼少期にこのウイルスに感染し水疱瘡を発症しています。水疱瘡の治った後も水痘・带状疱疹ウイルスは体内の神経節に潜んでいます。通常は免疫が働きウイルスの活動が抑えられるため発症しません。しかし免疫力が低下するとウイルスが再活性化し神経に沿った炎症を起こし初期の神経痛様症状から、神経に沿った皮膚の疱疹を帯状に認める疾患が带状疱疹です。神経の分布に沿うのが特徴で体の左右半分どちらかに症状が出ます。写真1のように典型的な带状疱疹の場合はすぐに診断がつきますが、顔や耳の神経などに発症することもあり、皮膚症状が治った後も数か月以上つらい痛みが残ってしまう带状疱疹後神経痛や神経後遺症(耳:難聴・めまい・耳鳴り、目:角膜炎・視力障害・失明、顔:顔面神経麻痺)など何らかの合併症をきたす方が20%~25%存在します。特に日本人では50歳以上の带状疱疹発生率が高く、日本人が80歳になるまでに約三人に一人が带状疱疹になる可能性があると言われています。早期に診断がつけば抗ウイルス薬の投与も有効です。疑わしい場合は、かかりつけ医や皮膚科医に連絡し診察してもらいましょう。

写真1-a: 初期から中期の带状疱疹 (50歳代男性2例)



写真1-b: 増悪時の带状疱疹 (後期高齢者男性)



带状疱疹を予防する方法がワクチン接種となり、生ワクチンと不活化ワクチンの二種類が使用されています。近年発売された不活化ワクチンは二回接種により効果の持続性と带状疱疹後神経痛などの合併症発症率の低下が認められており、当院では50歳以上の方には不活化ワクチンの接種を推奨しています。

日頃から免疫力の低下を予防することは万病に共通する対策ですが、ワクチンの有効活用で発症や合併症のリスクが軽減できるメリットはとても大きいと考えます。带状疱疹になってしまった患者さんの多くが、予防接種しておけば良かったという感想をお聞きます。特に慢性神経疼痛や神経麻痺は辛い後遺症となります。自分の免疫力が正常に働いている時期にこそワクチンをご検討頂ければと思います。



【渋谷医院 副院長 澁谷泰弘 医師】



Q1. 带状疱疹は他人にうつりますか?
水疱瘡(みずぼうそう)に罹ったことがない人(ワクチン未接種の乳幼児・小児・水痘未感染者)は、水疱瘡として発症する可能性があります。



Q2. 以前 带状疱疹に罹ったことがある場合は、ワクチン接種は必要ですか?
带状疱疹を一度発症した場合は、通常の免疫者であれば約10年は再発し難いとされています。しかし高齢者やその方の基礎疾患により細胞性免疫の低下が起こると、再感染の可能性が出てきます。罹患後5年以上の経過があれば、ワクチンで免疫のブースター効果(追加免疫)が起こります。希望される方は、主治医の先生と相談してみましょう。



Q3. 水疱瘡に罹ったことがあるのか? ワクチンを打ったことがあるのか分からない場合には?
水痘・带状疱疹のIgG抗体価を血液検査で測定し評価します。免疫を持っている方はある程度抗体価が上昇しています。しかし数値が必ずしも免疫力を正確に反映するものではありませんので、ワクチン接種の参考材料としてご検討ください。この検査は自費となります。

【渋谷医院 副院長 澁谷泰弘 医師】

講座のお知らせ



これからの人生をいかに豊かに過ごしていくか、早めの準備がシニアライフを彩ります。下記の予定で講座を開催いたしますので、是非ご参加ください。

- ① 9月24日(日) 相続・遺言講座
- ② 10月 1日(日) 施設の種類と選び方
- ③ 10月22日(日) 介護保険サービスの基礎知識



どなたでも参加可能となっております。各講座の開催時間は13:30~15:00、開催場所は新杉田地域ケアプラザ3階「多目的ホール」となります。1回だけの参加でも大丈夫です。申込みについては8月1日(火)9時よりお電話にて承ります。詳しくは7月中旬ごろ配布予定のチラシをご覧ください。お問い合わせは、新杉田地域ケアプラザ 地域包括支援センターまでお願いいたします。